

聖和短大 中村 恭子

1. 仙台市博物館に所蔵されている伊達家の服飾遺品（昭和26年伊達家より仙台市に寄贈されたもの）について、第1報、第2報でその概要および孔雀毛織陣羽織の報告をおこなった。今回は伊達政宗所用と伝えられている見事な陣羽織2領（黒羅紗地裾紅羅紗山形模様陣羽織、紫羅背板五色水玉模様陣羽織）について紹介、報告したい。

2. 実物精査、既往における調査の検討、さらに伊達家関係をはじめとする文献諸資料、絵画資料による考察、同時代伝承の確実度の高いものと思われる染織資料との比較検討によって追究をおこなった。

3. 調査の結果、黒羅紗地裾紅羅紗陣羽織は所伝のとおり伊達政宗所用と見て間違いのないものと思われる。これによって江戸初期（桃山時代より江戸時代に移行の過渡期）の服飾意匠、染織物、縫製技術の一端を窺い知ることができる。この陣羽織は既報の南蛮服飾品に比し、さらに南蛮色濃いものであり、貴重な服飾遺品である。紫羅背板水玉模様陣羽織は政宗所用かどうか明言できる段階まで追究は進んでいないが、実に卓抜な意匠の陣羽織である。しかも色彩計画は周到な配慮のもとになされていることが窺知され、それを作製するにあたっての技術がまた高度完璧なものといつてよい。各方面よりの検討、また何にもとらわれていない黒羅紗地陣羽織の意匠、製作技術に比し、紫羅背板陣羽織は明らかに後期のものであると思われる。